

施策

No. 16

歴史文化遺産の保存・活用及び文化芸術の振興

10年後のめざす姿

市固有の文化が多様な担い手によって保存・活用されるとともに、郷土に愛着をもった市民が歴史と文化あふれる環境のもとで質の高い生活を送っています。また、豊かな文化芸術に触れ、多様で自主的な文化芸術活動が活発に行われています。

住みよさ指標	当初	単位	実績値の推移					目標値(H37)	評価	
			H28	H29	H30	H31	H32			
1 「歴史文化遺産の保存・活用」に関する市民満足度	17.6	%	目標値	19.0	19.0			22.6	27.6	↘
			実績値	12.3						
2 「文化芸術活動などの環境」に関する市民満足度	15.1	%	目標値	15.6	16.0			17.5	20.0	↘
			実績値	10.2						
3 文化振興事業延べ参加者数	57,030	人	目標値	57,300	57,600			58,500	60,000	→
			実績値	55,270						
4 指定登録文化財数	192	件	目標値	193	205			197	202	○
			実績値	193						
5 ふるさと歴史学習館の入館者数	11,123	人	目標値	7,000	7,700			11,500	11,750	○
			実績値	7,058						
6 滝畑ふるさと森の入館者数	4,910	人	目標値	4,950	4,950			5,000	5,250	↘
			実績値	4,500						
7 文化会館の入場者数	210,285	人	目標値	212,000	215,600			221,000	230,000	→
			実績値	200,042						

総合評価	住みよさ指標の状況
C	<p>「歴史文化遺産の保存・活用」に関する市民満足度の低下は、平成28年度においては、修理中や整備中の文化財が多かったため、十分な活用をはかることができなかったことによるものと考えられる。</p> <p>事業数・公演数に大きく増減はないが、既存の事業に加え、福祉施設や学校へのアウトリーチ事業を充実させるなど、気軽に文化に触れる機会を提供した。</p>
施策を構成する事業の状況	
<p>重要文化財金剛寺金堂等の文化財の修理、史跡烏帽子形城跡の整備等を行い文化財の保存を進めた。川上地区で文化財を現地公開し、市民や来訪者が本市の歴史文化の魅力にふれる機会を提供した。小中学校、高校で郷土歴史学習を実施し、将来、活躍する世代の郷土に対する愛着を醸成した。効果的な施策推進のため、文化財保存活用計画の策定を進めた。</p> <p>文化芸術の振興につなげるため、河内長野市文化連盟へ芸術文化振興事業を、また大阪芸術大学へ森とアート推進事業を委託した。更に河内長野市文化振興財団を指定管理者とし、文化会館における文化振興事業の実施や会館の管理運営に取組み、市民の参加を促した。</p>	

これまでの取組み	<p>金剛寺金堂の保存修理やその他の文化財の保存修理、管理事業について支援を行っている。平成27年度より史跡烏帽子形城跡の整備を実施している。平成25年度より、歴史文化基本構想とこれに基づく文化財保存活用計画の策定に取り組んでいる。平成13年度以降、郷土歴史学習を市内小中学校で実施している。平成28年度より市内高校でも授業を実施している。</p> <p>文化会館における事業、芸術文化振興事業、平成24年度より森とアート推進事業、さらに平成23年度より文化振興財団や文化連盟協力の下、福祉施設や学校へのアウトリーチ事業を実施している。</p>
課題(めざす姿との差)	<p>平成29年度には、金剛寺金堂他2棟の保存修理事業と史跡烏帽子形城跡の整備事業が完了する事から、これらの効果的な活用を推進する必要がある。歴史文化基本構想に基づく、文化財保存活用計画を策定する必要がある。</p> <p>第2期文化振興計画を基礎として、事業の新たな展開を図り、文化振興事業の充実や機会の増大に努める必要がある。</p>
今後の方向性	<p>教育、観光、景観等の幅広い分野で文化財の活用を進めるため、庁内連携、自治体連携、市民協働による施策の実施を推進する。社会情勢と時代のニーズに応じた効果的で実効性の高い、文化財保存活用計画の策定を行う。</p> <p>それぞれの情報源と市民とを有機的につなぐことにより、新たな客層の発掘につなげる。また、第2期文化振興計画を基礎として、事業の新たな展開を図り、文化振興事業の充実や機会の増大に努める。</p>